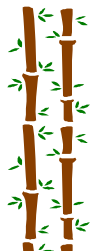


地域公開参観日終了 ~ 1年間の成長の姿をご覧いただきました。 ~

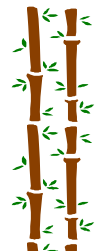
20日（月）6年参観日で、本年度の参観日はすべて終了しました。大勢の皆様方から、子どもたちの成長に拍手をいただき、ありがとうございました。

竹は、生長の早い植物で、1日に1mも伸びることがあるそうです。その竹の強さを保っているのが節。節の部分は上には伸びず、じっくりと太くなって、竹全体を支える重要な役目を果たします。次の大きな生長のために、しっかりと節を作り、準備をするのです。さらに、節の数は竹の子のときに決まっているといますから、無限に生長できるわけではありません。限られた一節一節をしっかりと作ることが大切です。

小学校の節目は6つ。残りの日々、今の学年ですべきことを行い、鍛えられた節目ができれば、春の光を浴びるころ、また真っ直ぐに伸びていくことができるでしょう。



- 1 明日の準備や予習を前の日の夜にして、忘れ物のないようにしましょう。
- 2 鉛筆の持ち方、衣服のたたみ方、身の回りの整頓等を見直しましょう。
- 3 漢字、ローマ字、計算等、基本的な事柄をもう一度復習しましょう。
- 4 家族の一員として、家の仕事を毎日（朝一つ、夕一つ）続けましょう。



1年

漢字、計算、合奏、けん玉...
1年間の本当に大きな成長。



2年

音読、かけ算等の学習やミニ音楽会での素敵な演奏発表。



3年

「見つけよう大切なもの」の心のこもった合唱に大感動。



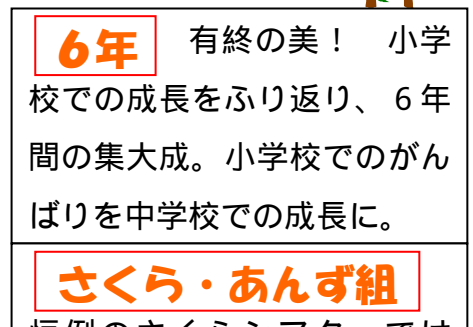
4年

1/2 成人式で20歳の自分の夢と親への感謝を堂々と発表。



5年

1年間の学習に加え、ヤギのユキちゃんとの生活も紹介。



6年

有終の美！ 小学校での成長をふり返り、6年間の集大成。小学校でのがんばりを中学校での成長に。

さくら・あんず組

恒例のさくらシアターでは「小判の虫干し」を熱演。カレンダーの出来栄も見事。



身近にある障害のそれぞれの特徴などを知りたいと思います。また、周囲の配慮点なども教えてください。

今回は、発達障害の一つである ADHD (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder 注意欠陥/多動性障害) を例に、周囲の対応を考えてみます。

ADHD は、「何度注意しても宿題をやってこない」「よけいなことを言って授業のじゃまをする」「話したばかりのことを質問してくる」「いつも1番でないとふてくされる」等、学級ではトラブルメーカーとなりがちです。

しかし、「神経細やか」「気配り名人」で、困っている人にだれよりも早く手助けすることができ、**たぐいまれな才能がある場合も** 少なくないのです。

- 不注意 (集中できない)
- 多動多弁
(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する
(考えるよりも先に動く)

見方
を変え
ると

- ひらめき 創造性
- エネルギッシュ
雄弁
- 実行力
行動力



よい面を大切にすると、この子の可能性をより一層伸ばせる ようになります。このことは、どの発達障害についても同じです。

ADHD の配慮点を右に挙げておきます。

うまくいかないことの原因を、この子の「**性格**」や「**躰**」に求めず、**その場その場で丁寧に対応し、具体的にどうすればよかったか**をともに考えます。

- 1 無用な刺激を与えない。**
気が散りやすいので、周囲に不要な物を置かない。
- 2 特性を理解して受容し、しからない。**
時間や場所等を約束し、許容範囲を広げる。
- 3 約束したことは、毅然とした態度で譲らない。**
社会のルールを教える。誤った学習をさせない。
- 4 問題行動にはその場で対応を考えさせる。**
気持ちが落ち着かない場合は、その場から遠ざける。
- 5 うまくできたときは、その場で十分に認める。**

こうした接し方は、ほかの発達障害のある子どもへの支援にも有効であるとともに、どの子にもいきる配慮となるはず。発達障害については、屋代小ホームページの特別支援教育「キラリ輝くこの子のために」をお読みいただければ幸いです。



屋代小
で検索